

## 令和5年度 第2回京都府立図書館協議会 議事要旨

### 1 開催日時

令和6年3月8日（金）10時から11時50分まで

### 2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

### 3 出席者

原田隆史委員（会長）、明智親吾委員、荒田和子委員、梅本恵子委員、小長谷麻美委員（zoom参加）、桂まに子委員、木下正広委員、塩江宏三委員、永田紅委員、松下亜樹子委員、

### 4 会議の内容

- (1) 令和5年度取組状況について
- (2) 令和6年度事業計画（案）について
- (3) その他

### 5 協議事項

- (1) 令和5年度取組状況について
  - 事務局から概要について資料に基づき説明
  - 委員意見
    - ・ 内部評価は、自ら取り組んだもの、外部アプローチのあったものを含め、メリハリをつけて評価すること。
    - ・ 電子書籍の活用方法の模索が必要。
    - ・ オンライン対面朗読の実績など障害者サービスが充実している。
    - ・ 収蔵庫問題のスケジュール感はどのような計画となっているのか。
    - ・ 貴重な図書資料は、恒温恒湿で保存する必要がある。職員には修繕・修復の技術を身につけるなど保存方法を勉強してほしい。
    - ・ 本の保存は重要。収蔵問題をはじめ、改善策など検討すること。
    - ・ 多くの取組を提示しているが、職員に余力はあるか。新しい取組も必要だが、削減も行い、省力化も評価項目に入れるべき。
- (2) 令和6年度事業計画（案）について
  - 事務局から概要について資料に基づき説明
  - 委員意見
    - ・ 正月に地震があったが石川県立図書館では書架からの図書の落下はほとんどなかったと聞いている。府立図書館の地震対策は大丈夫か。
    - ・ 利用する外国人は観光客か、住民か。
      - ▶ 両方おられる。外国語コーナーを設け案内している。展覧会等の案内の希望もある。

- ・ 集書院の展示は良かった。図書館の運営にあたり、優先順位を決め、絞りこんで取り組んでほしい。職員が努力している姿も発信したら良いのではないかな。
- ・ 電子書籍が学校でどのように活用されるのか、現状と見通しを教えてほしい。
- ・ 小学生ではタブレットを家に持ち帰り、保護者も電子書籍を利用することができるため、PTAとの連携も可能となっている。
- ・ 高等学校には電子書籍専用のID配布もある。高校時代は書籍に親しむ習慣をつける最後の学齢であり、インターネット検索だけでなく、電子書籍を活用した探究的な学びを身につけさせたい。それには、すべての教職員がレファレンス力を身につけるべきであり、研修が必要と感じている。
- ・ レファレンスは大切である、研修で図書館を活用することは、教職員に図書館の存在を伝える良い機会である。

### (3) その他（各委員から図書館に対する意見・助言）

- ・ 図書館を通じて人と触れ合う場、交流の場となってほしい。イベントに人を呼び、人と図書館を繋げてください。
- ・ 紙の図書を置き続けてほしい。ブラウジングしながらなんとなくたむろする場としても図書館は良い所。
- ・ 交流がキーワード。大学生が府立図書館に来て、大学生を介した図書館の活用方法を考えたい。本を近い存在にしたい。
- ・ 知的交流の場になることが一番。知のプラットフォームとして問題解決を支援する取組をお願いする。
- ・ 電子化に尽きる。電子化には、項目が揃っているか、職員体制が充実しているか、市町村立図書館等との連携支援はどうか、が必要である。
- ・ 紙の本を大切にしてほしい。
- ・ 出会うの場所として活発に、知的な交流ができる場にしてほしい。
- ・ 時代に合わせた対応が肝要。電子書籍の充実とともにシナリオなど脆弱な本の保存に工夫してほしい。
- ・ 良い紙の本は長持ちするが、電子化を進めるべき図書資料もある。図書館も変化しつつあり、静かでない図書館もありえる。ビジネス支援も大切。府立図書館が何をするのか、計画的に検討してほしい。さらに、電子書籍か紙の本か、両方を購入するのか、利用状況の分析が必要。細かな目配りをして、計画を立てるようお願いする。